



## 夢に向かって果敢に挑戦！

岩手県立農業大学校 校長 竹澤 利和

岩手県立農業大学校 農産園芸学科及び畜産学科の課程を修了した51名の皆さん、御卒業、誠におめでとうございます。

卒業に至るまで、仲間とともに助け合い、支え合いながら多くの困難を乗り越えてきたと思いますが、その陰では、御家族をはじめ、恩師や地域の皆様など皆さんに関わる多くの方々への支えがあったことを忘れないでいただきたいと思います。

さて、今、世界中において、政治、経済、気候、国や生活の安全保障、食料問題などあらゆる情勢が激しく変化しています。日本国内においても、物価高騰や令和の米騒動、トクリュウ犯罪の増加等々、国民生活の不安定化要素が増している状況です。

こうした中、皆さんは、4月からそれぞれの道を歩んでいくこととなりますが、農大での2年間では、技術力と実践力をはじめ、精神力やコミュニケーション能力など多くの力を身につけました。卒業生の皆さんには、そうした力を存分に発揮しながら、人の暮らしの最も基本となる食と農を支えてほしいと思います。人々の暮らしの基本を支えるということ、それは、地域の皆様をはじめ、県民や国民、そして世界の人々の幸福の実現に貢献するという事です。

夢や目標の達成に向けては、失敗を恐れず果敢に挑戦する精神とともに、多くの人との出会いと絆を大切にしながら「和」を重んじる心も必要です。皆さんには、必ず成し遂げることができる能力と精神力、そして協調性があるのです。

明るい未来に向かって皆さんが力強く羽ばたいていくことを祈念します。

## 令和6年度卒業式挙行



卒業証書授与

令和7年3月7日（金）に卒業式が挙行され、2学年本科生は、来賓や保護者が出席される中、新たな旅立ちの日を迎えました。

校長賞等の表彰、校長式辞、知事告辞、来賓祝辞の後、在校生代表阿部誠也さんの送辞、卒業生代表三条真歩さんの答辞及び前学生自治会長千田小百合さんの卒業記念品贈呈が行われました。

卒業生が、本校で身につけた知識や技術、仲間を財産として、それぞれの道で活躍されることを在校生・職員一同大いに期待しています。



在校生代表、阿部誠也さんの送辞



卒業生代表、三条真歩さんの答辞



緊張した面持ちの卒業生



# 卒業生からのメッセージ



**【農産経営科】**農大では、多くのことを学び、農業の楽しさや大切さについて学ぶなど、素晴らしい2年間を過ごすことができました。

特に、農産経営科の仲間たちと、授業や実習を通して絆を深めていき学校生活を楽しむことができました。田村先生をはじめ、2年間私たちを支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。（小笠原 栄斗）



**【果樹経営科】**農大では、様々な事を学ぶことが出来ました。果樹の栽培方法はもちろんのこと、最新技術を使ったスマート農業や世界の農業情勢等多くのことを学ばせていただきました。

農大で身に付けた知識はこれから社会に出るうえで大きな強みになると思います。鈴木先生をはじめ、私たちを支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。（佐藤 日伽莉）



**【野菜経営科】**私は、授業や実習を通し、基礎から野菜栽培などを学びました。自分の手で作物を育てる楽しさや難しさを経験することができ、農大に入学して良かったと感じます。寮生活では自立する力や仲間と協力して生活する力を身につけて楽しく過ごすことができました。担任の小原先生、柄澤先生や野菜経営科のみんな本当にありがとうございました。農大最高！（加藤 睦規）



**【花き経営科】**花き経営科は、人数が少ないながらも3人で協力して取り組んでできました。この2年間で、人数が少なくても、どう作業すれば効率よく動くことができるのかを試行錯誤しながら学びました。

今後、冠婚葬祭向けの花屋に就職するにあたり、これまで学んだことを活かし、企業の力になれるように努力をしていきます。2年間、大変お世話になりました。ありがとうございました。（佐々木 愛奈）



**【酪農経営科】**2年間という短い期間でしたが、大切な仲間と共に素晴らしい学校生活、寮生活を送ることができました。毎日の牛舎当番を行いながら講義や研修を通して、専門的な知識、技術を身につけてきました。

越川先生、職員の方々にはお世話になりました。今後とも大きく成長できるように、挑戦を続けていきます。（河本 純也）



**【肉畜経営科】**肉畜経営科7名は、児玉先生、安田先生に支えられて、たくさん成長し、楽しく、学びある学校生活を送れました。学生、先生全員が仲良く、気を許し、何でも言える関係を作れて嬉しく思います。この経営科で本当によかったなと思いました。卒業しても互いに支えあいたいです。2年間ありがとうございました！（前田 奈美）



# プロジェクト学習の成果発表!!

本校教育の主要な柱の一つであるプロジェクト学習の成果を発表する卒業研究成果全体発表会を12月18日に開催し、本科2年各経営科から選ばれた代表13名が1年間取り組んだ研究の成果を発表しました。

発表会は、学生から選出された運営委員によって進められ、東京農業大学の門間敏行名誉教授を審査員長として、農業農村指導士協会や農業法人協会等から選任された審査員により厳正な審査が行われ、最優秀賞1名、優秀賞2名が選ばれました。



## 最優秀賞

地球温暖化に負けないための  
果樹の着色向上対策  
果樹経営科2年  
佐藤 日伽莉

### 1 課題選定理由

近年地球温暖化となっており、今後さらに進むと予想されている。温暖化条件の中で少しでも果樹の着色を向上させるための技術について検討する。

### 2 結果

ブドウでは袋を遮光袋から白色袋に付け替える方法、タイバックシートを敷設する方法、満開10日後に2枚摘葉する方法が、モモでは収穫40日前に環状剥皮する方法が高い着色向上効果が得られた。



図 タイバックシート敷設による「サニールージュ」の着色向上  
(左: シート敷設、右: 無処理)

### 3 考察

本試験結果を活用することで、地球温暖化の中でも、赤色のブドウ及びびももの着色向上効果が得られると考えられる。



## 優秀賞

廃棄されるリンゴを用いたカ  
ットリンゴの開発  
果樹経営科2年  
千田 小百合

### 1 課題選定理由

果実に傷等がついたリンゴは廃棄されてしまうが、農家がカットリンゴとして販売できれば、農家所得向上につながる。品種別のカット後の果肉褐変程度と併せて検討する。

### 2 結果

岩手県内で栽培されている主要リンゴ13品種の果実カット後の果肉褐変程度を明らかとした。レモン果汁など入手しやすい食品添加物による褐変防止法、カットリンゴに適した形状や包装方法を明らかとした。

表1 りんご品種別カット後の褐変程度

経過6時間後の褐変度	品種
0 (褐変なし)	千雪
1 (褐変微)	紅ロマン、紅いわて
2 (褐変少)	きおう、さんさ、つがる、黄香、ジョナゴールド、シナノゴールド、はるか
3 (褐変中)	トキ、ルビースイート
4 (褐変多)	ふじ



図1 カットリンゴの形状の検討

### 3 考察

農福連携など雇用の確保ができれば、今回の技術導入により農家所得の増加に貢献できると考えられる。



## 優秀賞

ミニトマトの仕立て法の違い  
による長期どりの検討  
野菜経営科2年  
千田 千愛

### 1 課題選定理由

ミニトマトを栽培する際の課題は、生育後期の収量低下であると感じた。また、岩手県のミニトマトの夏秋栽培では、生育後半の収量確保が課題になっている。そのため、ミニトマトの長期どりをとする上で、収量、品質ともに適している仕立て方法を検討した。

### 2 結果

収量が最も多いのは1本仕立て斜め誘引だった、収穫枝更新法とわき芽利用法は大玉率、A品率が高い。粗収益比較ではわき芽利用法が最も高く、総合評価としてわき芽利用法が生育後半の収量も確保でき、最も優れていた。

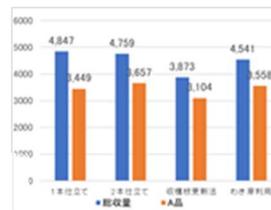


図1 収量調査結果

表1 仕立て法の総合評価

結果のまとめ	収量性	継続収穫	大玉率	A品率	食味(糖度、酸味)	作業性
斜め誘引	◎	○	△	△	○	○
収穫枝更新法	△	△	◎	◎	△	◎
わき芽利用法	◎	△	◎	◎	◎	◎

総合的にわき芽利用法が良い

### 3 考察

斜め誘引法とわき芽利用法の併用で、継続して収穫でき、9月から10月の単価が高い時期に収量確保が可能。収穫枝更新法は下段に収穫枝を発生させる方法の開発が必要。

# 東日本・全国を舞台にした活躍

## 東日本農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会

1月15日（水）～16日（木）、青森県上北郡七戸町で標記大会が開催されました。

本校からは、「意見発表部門」に酪農経営科2年の三条真歩さんと果樹経営科2年の去石野土香さんが、「プロジェクト発表部門」果樹経営科2年の佐藤日伽莉さんと千田小百合さん、野菜経営科2年の千田千愛さんの5名が出演しました。

上位入賞はかないませんが、各県の代表と交流するなど有意義な大会参加となったようです。

皆さんの頑張りは、学生、教職員にも非常に刺激になりました。



発表者の皆様。お疲れ様でした！



プロジェクト発表の様子！

## 「第35回ヤンマー学生懸賞論文・作文」で、銀賞受賞！！

第35回ヤンマー学生懸賞論文・作文において、花き経営科2年の石川樹さんが作文部門で銀賞を受賞しました。これで本校は7年連続受賞ということになりました。

令和7年2月7日（金）に岡山県で行われた入選発表会では、北は北海道、南は鹿児島と全国から学生が集まり、これからの農業に対する熱い思いを語り合うなど有意義な交流ができました。

来年度もこの懸賞論文・作文を通して、一人でも多くの学生の未来が拓けることを願っています。



作文部門で受賞した石川樹さん

## 受精卵移植講習会を開催しました！

2月5日（水）から27日（木）まで、家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植講習会が本校で開催され、畜産学科学生12名と一般受講生3名の計15名が参加しました。

講習会では、受精卵移植に必要な高度な技術や専門知識を学び、顕微鏡下での受精卵の取り扱いや凍結保存方法についても学びました。本校の畜産学科2年生は、退寮延期して資格取得に取り組みました。得た技術を活かし、今後は畜産業界に貢献することを期待しています。



顕微鏡を使って、受精卵の取り扱い等について学びました

## ～ 今後の主な行事予定 ～

4月 7日（月）始業式  
4月 9日（水）入学式  
4月11日（金）学生健康診断  
5月14日（水）学生自治会総会  
5月16日（金）父母等面談

4月 8日（火）新入生入寮  
4月10日（木）新入生ガイダンス  
4月25日（金）全校ガイダンス  
5月16日（金）父母の会理事会・総会